

# 第1学年 算数科 学習構想案

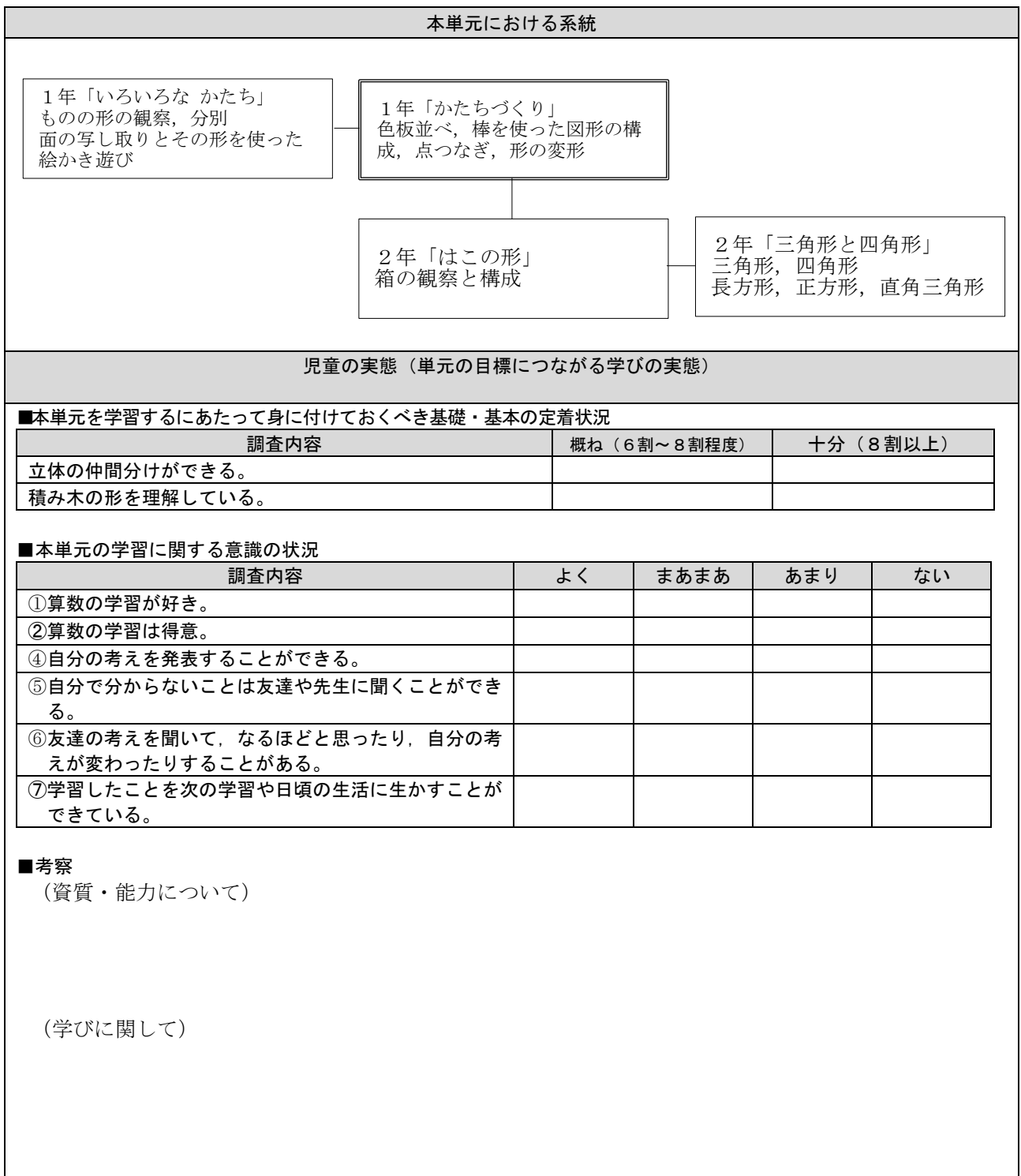
日 時 令和3年10月20日(水) 第2校時  
場 所 1年1組教室  
指導者 教諭 大坂 亜紅

## 1 単元構想

単元名	かたちづくり (啓林館「わくわくさんすう1」P104～108)		
単元の目標	(1) 色板や棒を使っていろいろなかたちが構成されていることを理解し、いろいろな形をつくることができる。 (2) 図形についての基本的な見方・考え方を身に付けることができる。 (3) 色板や棒などを使っていろいろな形をつくることに興味・関心をもって、意欲的に取り組もうとする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①色板や棒などを使っていろいろな形が構成されていることを理解し、形をつくっている。	①図形についての基本的な見方・考え方を身に付けている。	①色板や棒などを使っていろいろな形をつくることに興味・関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。
単元終了時の児童の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)			
形を作ったり分解したりすることを通して、形の構成の仕方について考えることができる。			
単元を通した学習課題 (単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
色板や棒を並べて、形を作ろう。		色板や棒の形に着目し、具体的な操作活動を通して、形の構成について考えること。	
指導計画と評価計画 (5時間取扱い 本時2/5)			
過程	時間	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○色板を並べて、教科書と同じ形をつくったり、他のいろいろな形をつくったりする。	★【態①】 (行動観察, 発言) ○色板を使って色々な形をつくることに興味をもって取り組んでいる。
	1	○色板を使ってそれぞれの形をつくり、何枚できているか考える。(本時)	★【思①】 (行動観察, 作品) ○何枚の色板を使って、どのように組み合わせさせてできているかを考えている。
	1	○棒を並べていろいろな形をつくり、何本できているかを考える。	★【知①】 (行動観察, 作品) ○棒を並べて色々な形をつくることできる。
	1	○点をつないでいろいろな形を構成することができる。	【知①】 (行動観察, 作品) ○点をつないで色々な形をつくることできる。
	1	○色板や棒が並んでいる絵を見て、どこが変化しているかを考える。	【思①】 (行動観察, 発言) ○形の同じところや違うところに着目して、色板や棒を動かしている。

## 2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)
<p>〔知識及び技能〕 B (1) ア (イ) 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 〔思考力, 判断力, 表現力等〕 B (1) イ (ア) ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えたり、具体的な操作を通して形の構成について考えたりすること。</p>
教材・題材の価値
<p>本単元は、色板並べ、棒並べ、点つなぎによる図形を構成する力と、操作によってできる図形の変化を捉える基礎的な経験を積むことをねらいとしている。色板並べや棒並べ、点つなぎは児童が興味や関心をもって取り組める題材である。今回の活動は、今後の図形学習における基礎であり、図形を通したものの見方や考え方を養ううえで重要な意義をもつものである。そこで、本単元では、楽しみながら図形についての豊かな感覚を培うために、児童一人一人が図形を手で触ったり、移動したりする作業的な数学的活動を多く取り入れ、構成・分解の経験を積ませたい。</p>



### 3 指導に当たっての留意点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

- 本単元の基礎・基本は、「具体物を用いて形を作ったり分解したりすること」である。色板や棒を使って形作りをする活動を重視することで形の構成や分解について理解できるようにする。（視点①）
- 本時の導入では、影絵を提示して何に見えるか問うことで、児童の生活体験と結び付け、学習への意欲付けを行う。（視点②）
- 単元のゴールに向かう問いかけを適宜行い、課題意識を高め、めあてを共有していく。（視点②）
- 色板や棒の並べ方をペアで考える時間を設定したり、児童の作った形を電子黒板に映し出したりすることで、自分の考えを広げたり、深めたりできるようにする。（視点③、⑤）
- 一人一人の考えを認めることで、自由に発言できる雰囲気づくりを行う。（人権が尊重される授業づくりの視点）

4 本時の学習

(1) 目標 影絵に合わせて色板を並べる活動を通して、色板の並べ方を工夫し、影絵の形を構成することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 前時の学習内容からめあてを設定する。</p> <p>①色板2枚から3つの形をつくる。 ◇2枚をぴったり揃えればいいよ。</p> <p>②影絵を見て、何の形に見えるか考える。 ◇家に見えます。 ◇山です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>【めあて】影にぴったりの形をつくろう。</b></p> </div>	<p>○色板2枚を使うことで、形の構成の基礎となる3つの形ができることを確認する。</p> <p>○何の形に見えるか問うことで、児童の生活体験と結び付ける。</p>
展開	25分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>【学習課題】どのように並べましたか。</b></p> </div> <p>2 色板で影絵にぴったりの形をつくる。</p> <p>①色板で家(㊦)を並べる。 ◇三角の形があるな。 ◇四角を2つ作れば良さそうだ。 ◇色板は全部で6枚使うと思う。</p> <p>②どのようにつくったか話し合う。 ◇三角と四角でつくれました。 ◇三角が2つ見えるよ。</p> <p>③色板で山(㊧)を並べる。 ◇色板を8枚使うと思う。 ◇また四角があるぞ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【期待される学びの姿】</b> 色板2枚でできる四角が方眼の1マスになることに気付き、影絵の形を構成することができる。</p> </div>	<p>○何枚使いそうか考えさせることで、問いをもたせる。</p> <p>○(㊦)の色板並べを通して、きまりを明確にする。</p> <p>○色板と同じ大きさのワークシートを提示し、必要に応じて補助線を入れる。</p> <p>○組み合わせが様々あることに触れることで、図形を見る目を豊かにする。</p> <p>○方眼の1マスが三角の色板の2枚分に当たることに気付かせる。</p> <p>○ペアで話し合わせることで、図形の構成について理解を深めさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【具体の評価規準】思①</b> ○何枚の色板を使って、どのように組み合わせさせてできているのか考えることができる。 (方法：発言・作品)</p> </div> <p><b>【到達していない児童への手立て】</b> ○影絵に補助線を入れ、方眼の1マスが色板2枚分にあたることを示す。</p>
終末	15分	<p>3 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>【まとめ】色板の並べ方を工夫すると、いろいろな形ができる。</b></p> </div> <p>4 練習問題をする。 ◇ヨットは9枚で作れそうだ。 ◇魚は10枚かな。 ◇1マスには色板を2枚が入るね。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>○児童の発言を拾いながら本時のまとめをする。</p> <p>○ヨットと魚の影絵を提示し、本時の学びの定着を確認する。</p> <p>○視点を与えて振り返るようにする。</p>

## 【板書計画】

**かたちづくり**

いろいろ2まい

めあて

いろいろをつかって、かげに  
ぴったりのかたちをつくらう。

まとめ

いろいろのならばかたをくふうす  
ると、いろいろなかたちができる。

さんかく

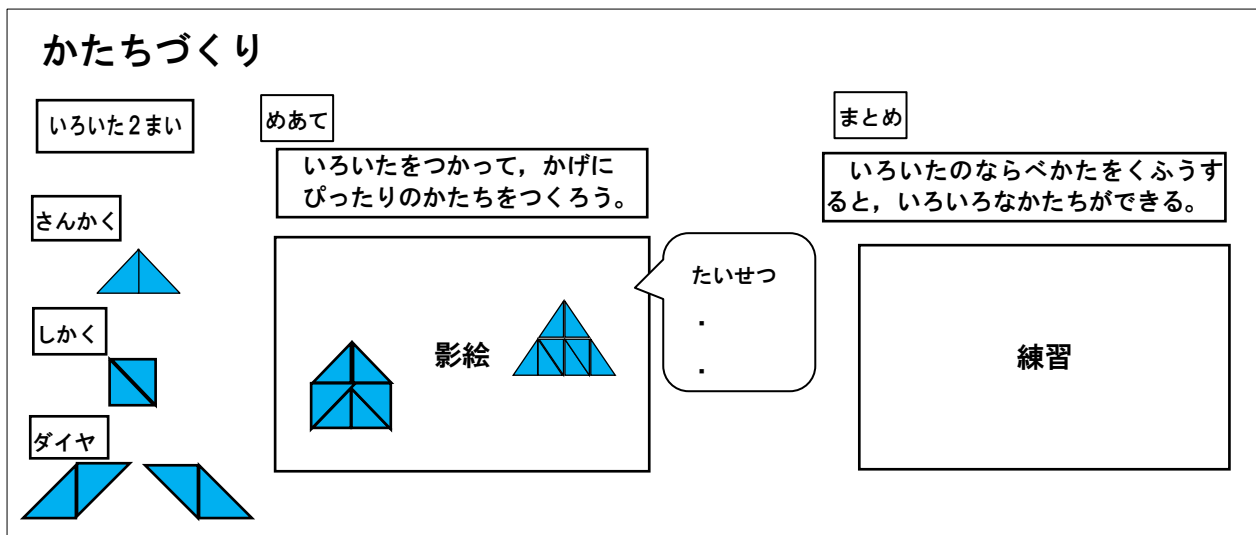
しかく

ダイヤ

影絵

たいせつ

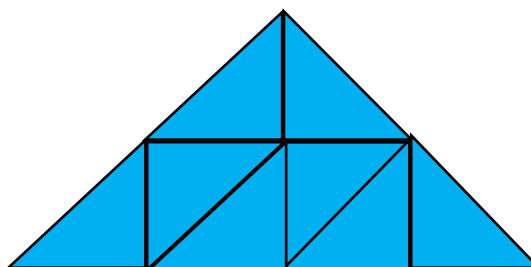
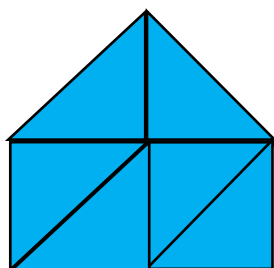
練習



## 【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画，ICTを活用した発表，まとめ等による考えの共有の計画等

児童が作った形を提示する。



※その他 課題解決を図る情報収集計画，検証結果やパフォーマンスの記録計画など（シーンに応じて活用計画を立てる）

## 【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では，見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

- ・たしかめテスト「14 かたちづくり」の問題を解く。
- ※必要に応じて児童が学習できるようなプリントを準備しておく。